

▽ 李 イニッド 教授 LEE, Enid (a.k.a. Waiching Enid Mok)



所 属： 総合文化学部 英米言語文化学科
 地域文化研究科 英米言語文化専攻
 担当科目：【学部】 英語音声学、Pronunciation Workshop、
 基礎演習Ⅲ・Ⅳ、専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ、
 英語学概論、英語学特殊講義、
 【大学院】 言語教育特殊研究ⅠA・ⅡA、社会言語学特論、
 マルチリンガル教育特論

学歴等のプロフィール

- ① 【主要学歴】②【学位】③【所属学会】④【主要な社会的活動】

①	米国ハワイ大学大学院言語学科博士課程修了（2001年） 同大学院英語教育学科修士課程修了（1993年）
②	言語学博士 (Ph.D. in Linguistics)、英語教育修士 (MA in English as a Second Language)
③	日本中国学会、沖縄国際大学外国語学会、環太平洋応用言語学会、 国際異文化間コミュニケーション研究学会

教育活動等

主な教育活動	年月日	摘要
1. 教育活動・方法の実践例 1) Pronunciation Workshop	2009年9月より	平成28年度後期。英米言語文化学科2年次以上。週2回。CALL教室使用。演習。専門科目。履修者数56名。語学学習ソフトを使って音声練習やクイズをするほか、個別指導も行う。
2) 英語音声学	2008年4月より	平成28年度前期。英米言語文化学科3年次以上。週2回。講義。専門科目。履修者数97名。英語音声に関する専門知識を学ぶほか、様々なWorld Englishesの音声を体験する。
3) 基礎演習Ⅲ・Ⅳ	2007年4月より	平成28年度前期・後期（2クラスずつ）。英米言語文化学科2年次以上。週1回。演習。専門科目。履修者数22名（Ⅲ）・22名（Ⅳ）。Academic reading & writing と oral presentation の基礎を学び、英語で実践する。
4) 専門演習Ⅰ・Ⅱ	2008年4月より	平成27年度前期・後期。英米言語文化学科3年次。週1回（隔年開講）。演習。専門科目（必修）。履修者数29名（Ⅰ）・30名（Ⅱ）。非言語コミュニケーションの基礎から学び、英語・日本語の文献を精読し

5) 卒業論文Ⅰ・Ⅱ	2011年4月より	た上、オリジナルなレポートを作成する。 平成28年度前期・後期。英米言語文化学科4年次。週1回(隔年開講)。演習。専門科目(必修)。履修者数名23名(Ⅰ)・24名(Ⅱ)。卒論の書き方を学び、オリジナルな卒業論文を作成する。
6) 異文化理解Ⅰ・Ⅱ	2007年4月～2016年3月	平成27年度前期・後期。英米言語文化学科3年次以上。週1回。講義。専門科目。履修者数150名(Ⅰ)・134名(Ⅱ)。異文化の事例研究や比較研究、時事分析など。
7) 英語教育学特殊研究Ⅰ・Ⅱ(大学院) (平成29年度より、「言語教育特殊研究ⅠA・ⅡB」へ名称変更)	2013年4月より	平成28年度通年。大学院地域文化研究科英米言語文化専攻専門科目。週1回。講義。言語教育学領域(英語教育)必修。履修者数2名。英語教育学の研究法や理論を学び、オリジナルな修士論文を作成する。
8) マルチリンガル教育特論(大学院)	2014年4月より	平成29年度前期。大学院地域文化研究科英米言語文化専攻言語教育学領域専門科目。週1回。講義。履修者数3名。多言語教育のあり方をめぐって、その可能性や諸課題も含め、総体的に考察する。
9) 社会言語学特論(大学院)	2016年9月より	平成28年度後期。大学院地域文化研究科英米言語文化専攻言語教育学領域専門科目。週1回。講義。履修者数2名。社会言語学の諸分野に関する基礎知識、理論及び研究方法を学び、研究実践に繋げる。
10) 英語学特論(大学院)	2014年4月～2016年9月	平成26年度後期。大学院地域文化研究科英米言語文化専攻言語教育学領域(英語教育系列)専門科目。週1回。講義。履修者数1名。英語教師に必要とされる英語学の専門知識を学ぶ。
11) 英語教育学特論Ⅲ・Ⅳ(大学院)	2012年4月～2013年3月	平成24年度前期・後期。大学院地域文化研究科英米言語文化専攻専門科目。週1回。講義。専門科目。履修者数3名(Ⅰ)・3名(Ⅱ)。英語教授法や理論を学ぶ。
12) 言語学特殊研究Ⅰ(大学院)	2011年4月～2012年3月	平成23年度通年。大学院地域文化研究科英米言語文化専攻専門科目。週1回。講義。言語学領域必修。履修者数2名。言語学の研究法や理論を学び、オリジナルな修士論文を作成する。
13) 外国人留学生の受入・世話役	2007年～2014年	台湾東海大学及び中国マカオ大学から派遣された交換留学生の世話役。マカオ大学へ派遣する学生の事前学習を担当する。
14) 修士論文審査	2010年より	H22年度1名(副査)。H24年度2名(主査)。H27年度2名(主査)。H28年度1名(指導教員)。大学院地域文化研究科英米言語文化専攻(英語教育)修士論文。
2. 作成した教科書、教材、参考書		

1) Pronunciation Workshop	2009年より	英語の歌、早口言葉、有名人のスピーチのCD・ビデオ及び学生の音声ファイルを精選し、教材として使用する。
2) 英語音声学	2008年より	指定教材以外に、教員自ら精選・編集したビデオやオーディオ教材を使用する。
3) Oral Communication II	2007年～2011年	クイズや歌、ビデオ、新聞記事、社説などを精選し、教材として使用する。
4) 異文化理解 I・II	2007年～2016年	教員自ら作成・編集したビデオや話題性のあるニュースや社会現象を教材として使用する。
5) 基礎演習 III・IV	2007年より	指定教材以外に、学生のニーズや興味に応じて補助資料を精選し、学生へ配布する。
6) 卒業論文 I・II	2008年より	指定教材以外に、学生のニーズや興味に応じて補助資料を精選し、学生へ配布する。
7) 英語教育学特論 III・IV (大学院)	2008年～2013年	指定教材以外に、学生のニーズや興味に応じて補助資料を精選し、学生へ配布する。
8) 言語学特殊研究 I (大学院)	2011年～2012年	指定教材以外に、学生の研究テーマに関連する補助資料を精選し、学生へ配布する。
9) 英語教育学特殊研究 I・II (大学院)	2013年より	指定教材以外に、学生の修論テーマに関連する補助資料を精選し、学生へ配布する。
10) マルチリンガル教育特論 (大学院)	2014年より	指定教材以外に、学生の修論テーマに関連する補助資料を精選し、学生へ配布する。
11) 英語学特論 (大学院)	2014年～2016年	指定教材以外に、学生の修論テーマに関連する補助資料を精選し、学生へ配布する。
12) 社会言語学特論 (大学院)	2014年より	指定教材以外に、学生の修論テーマに関連する補助資料を精選し、学生へ配布する。
3. 学生支援活動		
1) 学習支援		学習不振者への指導 (留学生を含む)。 海外留学指導 (交換留学生を含む)。
2) 生活支援		学生数：ゼミ生全員。 オフィスアワー：週2回×90分。
3) キャリア支援		学内アルバイト生の推薦及び採用 (留学生を含む)。インターンシップの推薦 就職相談、面接指導、進学指導
4. 教育改善活動 (FDなど)		
1) 授業評価アンケート	2007年より	毎学期実施している。授業内容について高い評価を得た。大人数のクラスにおける私語に不満な声があったため、授業中頻りに指導するようになった。
2) 科目別のアンケート及びリアクションペーパー	2007年より	全学共通の授業評価アンケートを実施するほか、授業の改善点や学生のニーズなどを早期に把握し、授業改善に役立てるた

3) 学内 CALL ワークショップの講師	2009 年	め、開講科目の内容や性質に応じて独自で考案したアンケートやリアクションペーパーを実施する。 2009 年 12 月に、本学外国語センター主催の CALL ワークショップで講師として「CALL による学習者中心型授業の実践例～English Pronunciation～」を発表した。
4) F D 研修会への参加	2011 年, 2013 年	「共通英語」、「Moodle」に関する F D 研修会へ参加した。
5. 社会貢献など 1) 文科省教員免許状更新講習担当	2013 年より	開設講習名： 「英語の発音再発見から再チャレンジへ」、「英語音声実践トレーニング」
2) 沖縄国際大学主催公開講座：うまんちゅ定例講座（おきなわ県民カレッジ連携講座）	2016 年 7 月	テーマ：「香港における言語状況：トライグロシアへの軌跡と課題」

研究業績等

【 主要論文及び主要著書 】

2017. 「香港における言語状況：トライグロシアへの軌跡と課題」『しまくうとばルネッサンス』
沖縄国際大学公開講座委員会発行（印刷中）
2016. From television to real life: *Hai?* as an innovative change in Modern Japanese. *Global Communication and Beyond: Language, Culture, Pedagogy and Translation*, pp. 52-80. National Taipei University of Science and Technology.
2015. What do tongue twisters tell us about L2 receptive competence? *Studies in English Language and Literature* 35:131-144.
2015. Native and non-native interpretations of a co-verbal facial gesture in Japanese conversation: An experimental study. 『沖縄国際大学外国語研究』第 18 巻第 2 号 31－50 頁
2014. The use of the interlocutor's L1 fillers in foreigner talk: Evidence from English conversations with Japanese EFL learners. 『沖縄国際大学外国語研究』第 17 巻 第 2 号 43－54 頁.
2012. Linguistic landscape in the discourse of citizen aesthetics: Code-mixing on public and commercial signs. 『公民美學與當代社會』洪泉湖（編）（第 4 章 57－90 頁）.
2012. Revitalizing the Hakka language in Taiwan: Achievements, problems and prospects. 沖縄国際大学南島研究所『台湾調査報告書』11－38 頁.
2011. Use and maintenance of heritage language among Chinese immigrant families: Some observations in Okinawa. 『語言、社會與藝術』謝登旺（編）（第 3 章 33－62 頁）.
2011. Use and acquisition of L2 gestures: A learner attitude survey. 『沖縄国際大学外国語研究』第 14 巻 第 2 号 1-17 頁.
2010. Defossilization of the Japanese flap for English /r/: An empirical study. *Journal of Applied English* 3: 113-124.
2009. Human classifiers in Cantonese: The speaker's choice and its implications. 『沖縄国際大学外国語研究』第 1 2 巻第 1 号 105－121 頁.

2008. Teachers' questions in team-teaching: A case study of CSL. 『沖繩国際大学外国語研究』第11巻第1号 101-111頁.
2008. On the evolution of lip features. 北海道教育大学『人文論究』第77号 177-197頁.
2007. Socio-cultural perspectives on sound symbolism. 北海道教育大学『人文論究』第76号 155-174頁.
2006. Chinese onomatopoeia and ideophones: Some descriptive and theoretical issues. 北海道教育大学『人文論究』第75号 117-131頁.
2005. New segments, clusters and syllables in the sound-symbolic vocabulary of Mandarin, Cantonese and Hakka. 北海道教育大学『人文論究』第74号 109-128頁.
2004. Tone in Chinese onomatopoeia and ideophones. 北海道教育大学『人文論究』第73号 1-15頁.
2003. Interlanguage phonology: A review of recent research with implications for theory and pedagogy. 北海道教育大学『函館英文学』第42号 33-49頁.
2003. Synchronic variations in Chinese onomatopoeia and ideophones. 北海道教育大学『人文論究』第72号 31-56頁.
2002. Nonverbal behavior in cross-cultural perspective: A study with Japanese college students. *JALT Hokkaido Proceedings 2002* (pp. 51-60).
2001. *Chinese Sound Symbolism: A Phonological Perspective*. Ph.D. Dissertation, University of Hawaii (UMI Number: 3005218).
2000. Code-mixing between Cantonese and English. 北海道教育大学『函館英文学』第39号 53-68頁.
1996. Colors talk: Some examples of Cantonese ideophones. In Cynthia M. Reves, Caroline Steele & Cathy S. P. Wong (eds.), *Linguistics and Language Teaching*, pp.1-20. Second Language Teaching and Curriculum Center, University of Hawaii.
1995. The phonology of Cantonese onomatopoeia. *Papers from the Annual Meeting of the Atlantic Provinces Linguistic Association* 19: 173-186
1994. Reflecting on reflections: A case study of experienced and inexperienced ESL teachers. *System* 22(1): 93-112.
1993. Contrastive rhetoric and the Japanese writer of EFL. *JALT Journal* 15(2): 151-162.
1992. A poetry lesson for an ESL reading course. *The Language Teacher* 26(7): 3-7.

研究分野

英語教育、音韻論、社会言語学、語用論、非言語コミュニケーション、異文化理解

【Eメール・ホームページ等】

e.lee@okiu.ac.jp

平成 29 年 4 月 18 日現在